

さえずり

令和4年3月9日発行



最終号によせて

会長 根津 江美子
(十日町市立上野小学校校長)

「さえずり」が最終号となりました。会員の活動の中での様子やリコーダーの演奏技能にかかわる記事まで、様々な形でリコーダー教育研究会のメンバーを結び付けてきた「さえずり」です。今までたくさんの方が「さえずり」にかかわってくださいました。本当にありがとうございました。

今回、最終号となる運びとなったのは、会員数の減少と会員の高齢化にともなう苦渋の決断でした。何とか細々とでも新潟県リコーダー教育研究会を存続させていこうということで、コンテストのみを残して、このような形とさせていただきます。今まで中心となってかかわってきてくださった諸先輩方には、本当に申し訳なく思います。お詫び申し上げます。

これからも、少しずつ形を変えながらも、私たちのリコーダーを愛する気持ちを大切にしていきたい。そして、リコーダーに携わる人を増やし、広めていきたいと考えています。末永く持続可能な新潟県リコーダー教育研究会にするために、引き続きご支援をよろしくお願いいたします。

最終号に原稿をお寄せいただいた皆様、ありがとうございました。

<編集子から>

新型コロナウイルス感染拡大が収束せず、今年度も総会を紙上で行い会を運営しました。県リコーダーコンテストは今年度も録画審査で行いました。困難な状況の中を活動を工夫し参加いただいた団体に敬意を表します。そのような中、感染拡大がやや収まった10月10日（日）南魚沼市民会館で例会を開催しました。リコーダー合奏の楽しさを参加者みんなで味わうとともに、県リコ研がかけがえのないものでありこれからも続けていきたいという思いを共有できました。

さて、会報「さえずり」は本号をもって発行を終了します。会報の名前「さえずり」は、リコーダーの語源であるラテン語の「リコルド（鳥のさえずり）」が由来なのだろうと推察します。リコーダーを愛する会員が思いをさえずり合う場であったのかもしれませんが。「さえずり」は会員相互の交流にとどまらず、会員以外にも配布しリコーダーの魅力を伝える役割を果たしました。

会報の役割はホームページに一本化します。コンサート情報や活動の様子などの情報をホームページ内専用フォームでお寄せください。これからもよろしくお願いいたします。（嶋見）

新潟県リコーダーコンテストに3年連続出場して

新潟県立村上特別支援学校 宮澤 紀子

本校に赴任した4年前、休み時間になると、高等部2年の教室からリコーダーの音色が聞こえてきます。男子生徒2名が、本校のイメージソング「シャイン」を吹いていたのです。他にも、小中学校で習った教科書の既習曲やポピュラー音楽など、楽しそうに吹く彼らを練習に誘い、高等部3年時と社会人1年目に、二重奏でコンテストへ初出場。おそらく県内の特別支援学校の生徒が、県リコーダーコンテストに出場したのは初めてで、障がい者施設での初コンサートも実現。

社会人2年目となった今年度は、入倉 光誠さんがコンテストとフェスティバルの部に、独奏で出場を決意。私との練習は週1回、彼の仕事帰りに1時間半と決めて、「私達にとって最後のコンテスト、心を込めて美しい音色で演奏しよう」を目標に、ヘンデル作曲「ソナタニ短調」に挑戦。昨年度より曲の難易度が上がり、譜読みに時間がかかり、コロナ禍や猛暑も重なり、肉体労働とリコーダー練習の両立に苦労した彼。トリルの入れ方を工夫したり、ピアノ伴奏と息を合わせて演奏したりするなど技術面を磨きながら、曲のイメージを色や情景にたとえて演奏するなど、表現にも力を注ぎ、コンテストの結果は3年連続銀賞、及び奨励賞をいただきました。彼は初任給でアルトリコーダーを購入するほどのリコーダー好き。今までの経験を生かし、これからも趣味でリコーダーを続け、心豊かな人生を歩んでいってほしいと願っています。

コンテスト参加から得たもの

佐渡市立両津中学校 岩崎 かおり

放課後、廊下を歩いて音楽室に向かう時に聴こえてくるリコーダーの音色が好きです。その音が聴こえてくると自分のモチベーションがグッと上がり、「よし、今日も楽しもう！」という気持ちが一段と強くなります。私をそんな気持ちにしてくれる音楽部のメンバーは、リコーダーコンテストに参加することを目標の一つに掲げて練習してきました。練習で常に意識していることは、「音色を合わせよう」「感じたことを伝え合おう」ということです。生徒たちが「こんなふうに演奏したい」という思いをもち、それを共感し合って表現できるように、演奏してみて感じたことを聴きながら練習を進めています。生徒たちとの音楽づくりは、毎回、自分の勉強になるのでとても充実しています。コンテストに向けての練習が始まると、生徒たちはこれまで以上に音色にこだわったり、自分たちの演奏について意見を交換し合ったりできるようになりました。動画撮影が無事に終わり、初めてのコンテストに参加できたと喜んでくれた生徒たちの笑顔と、次のステージに向けて積極的にリコーダー演奏をする姿を見て、コンテストに参加して得たものはとても大きかったと感じました。

恵まれていると感じるのは、今年度から嶋見靖之校長先生が当校に赴任されたことです。熱く温かいご指導でたくさんのことを学ばせていただいています。私自身もリコーダーや音楽の素晴らしさを伝えていけるように、これからも生徒たちと一緒に、充実した時間を過ごしていきたいと思えます。

リコーダーの会を通しての出会い そして 感謝

根津江美子

新潟県リコーダー教育研究会に入って、37年になりました。

〈新採用 小出小時代〉

リコーダークラブを一人で担当することになり、どうしてよいやら分からず、十日町のイトー楽器さんに行きました。すると、そこで樋熊先生を紹介していただきました。そして、この会があることを知ったのです。

入会をしてから、長岡のけさじろ荘で月1の例会があり、遠藤・吉澤・金子先生などプロの先生から直接指導を受けることができるので、よく通いました。会員は2人だけであと講師というもったいない会もありました。

その例会の後、小池先生と上越線に乗って魚沼まで帰りました。小池先生とリコーダーの話をするのがとてもいい時間でした。私が小出で降りると、六日町まで小池先生が一人になります。寝過ごして高崎まで行ったことがあったそうです。

2回めの合宿参加の時。あの坂本九さんの御巢鷹山の飛行機事故があった年です。湯沢の広川ホテルで驚いたことを覚えています。合宿は数々の思い出があります。アッシジの合唱団が来て湯沢駅のコンコースにみんなで見に行ったこと、夜遅くまで練習したこと、湯沢のカラオケスナックでたくさん歌ったこと、穰司先生とラーメンの歌を歌ったり吹いたりしたこと、諸岡先生の指揮で120人くらいの大合奏を体育館でやったこと、120人ほどの参加者が広川ホテルの平衡感覚が不安になる階段を上って、飲み会の場所に行ったこと、亀貝先生に指揮を教えてもらったこと、入広瀬のテニスコートに夜中に寝転んで、流れ星発見大会をしたこと、金子先生が作るリコーダーオーケストラの音のひびきを楽しんだことなどなどまだまだたくさんの思い出があります。その一つ一つが昨日のここのように、思い出されます。

新採用で「音楽が好き」と言ったらリコーダークラブ（部活でなく週一のクラブ）の担当になりました。前任者がコンテストに出していたということで、私がそれを引き継ぎました。週一のクラブなので担当は一人、コンテストの引率も一人でした。外で練習していたらチューニング室に入る時間も分からず、チューニング室に入らずに本番ステージという失敗もしました。また、曲のくりかえしを忘れて私の指揮が止まってしまい、子供たちが2小節くらい吹いて曲が止まったという失敗もありました。

そんな私を見捨てることなく、樋熊先生は選曲から子供たちの指導に至るまで、面倒を見てくださいました。時には2時間も楽譜を見ながら電話で教えていただくこともありました。本当にお世話になりました。

〈山の学校～大赤沢小時代～〉

900人の学校から、全校8人の学校に赴任。3年生以上5人でコンテストに出場しました。この頃からようやく音の違いが分かるようになりました。山の学校の子供たちとのリコーダーの時間は、私にとってかけがえのない時間でした。

この頃から、リコーダーの役員をするようになりました。最初は小池先生がやっていた夏の合宿のお手伝いをしました。加納（井出）先生、大竹（杉本）先生、根津は、

リコーダー3人娘と言われていた時代でした。休憩時間前になると3人でアイスクリーム配りをしました。参加者名簿を家に忘れて、大赤沢の同僚であった小海先生に取りに行ってもらおうというミスをしました。でも、そんなミスを責めることなく、皆さんが温かくしてくれていました。

佐渡での全日本研究大会もありました。たくさんの全国の先生方と出会えた（偉い方々だったので、名前だけ知っていた先生がこの人かと名前と顔が一致したのです。）大会でした。杉本先生と佐渡のホテルに泊まり、そこで、つりをして来ていた佐渡相川の役場の方々とご一緒させてもらいました。隣のテーブルにいた私たちは声をかけられ、お酌をしながら、おいしいとれたての舟盛りの刺身をたくさんいただきました。
<中条小・東小時代>

この頃から全日本大会での金賞を子供たちと目指しました。中条小の頃は、まだ子供が小さくて、部活ばかりやっていると自分の学級の仕事が追いつかず、子供をおんぶしながら休みの日に印刷をしていることもありました。

中条小学校は、私がリコーダー部を作った学校です。一年目は楽器がなくて、自分の楽器や十日町中学校からの借用楽器でまかないました。教務室にこれ見よがしに十日町中から借りてきた楽器を並べ、楽器がほしいことをアピールしました。中条小の子供たちはとても一生懸命で「部活は苦しいけど楽しい。これは『^{くるたの}苦楽しい』ということだ。」と日記に書き、この言葉を作り出しました。私にとっても、本当に本当に充実した時間でした。

そして、会の役員としては会報「さえずり」発行の仕事をしたり（以前の会報は、印刷屋に頼んでいて年1回くらいの発行でした）事務局長をしたり、コンテストの司会進行をしたりしました。かなり長くこの仕事をしていたように思います。

東小学校の時は、長岡で全日本研究大会がありました。そこで研究演奏をすることができました。今までお世話になってきた先生方に少しでも恩返しができるようにと頑張りました。

<北辰小時代>

小池先生が作られた北辰小学校のリコーダークラブ（部活）を担当することになりました。北辰小の子供たちは、様々なことをして活躍しており、リコーダー部の練習だけに時間を費やすことが難しい子供たちが多くいました。ダンス教室に通っていたり、バスケットボールをしていたりと、土日の練習には、全員揃わないことが多くありました。コンテストとバスケットの大会が重なり、保護者会を開きました。ちょうど長岡開催だったので、バスケットのメンバーは、コンテストの演奏を終えてから、バスケットの第2試合に出るという離れ業をしました。第1試合では、2群の子供たちが出場して勝利していました。第2試合に1群のリコーダー部のメンバーが参戦しました。2群の人たちが勝ったからこそ、この技ができたのです。

2年目に全日本大会の出場権を逃すという忘れられないことがありました。でも、子供たちは腐ることなく練習を続け、次の年は全日本大会で金賞を取りました。

私は部活で子供たちと一緒にやるのは、北辰小を最後に終わりにしました。

その後、小池先生から会長役を引き継ぎ、皆川・前田先生からアドバイスを頂きながら、今に至っています。神保・永井先生たちと楽しく仕事をしました。新潟県リコ研の会長は、全日本の副会長になります。何も知らない私がこんな大役をしていいの

だろうかと思いながら、北海道や沖縄、東京等の先生方とともに、全日本の仕事を進めています。

さらに、数年前から小池先生が作られた南魚沼市民会館のリコーダー教室の講師もしています。リコーダー好きのメンバーの皆さんと楽しくやっています。時々、小池先生のことを懐かしく思い出して話をしています。週1回、峠越えをして練習に行きますが、帰ってくる時にはとても清々しい心地よい疲労感を味わいながら、充実した時間を過ごしています。

新採用から様々な先生方との出会いがあり、何も知らない私を育てていただきました。私にとって、リコーダーは切っても切れない大切なものです。この会に所属して本当によかったと思っています。

小原先生、南雲先生、中村先生、そして小池先生など、今は亡き先生方に本当にかわいがっていただきました。感謝の気持ちで一杯です。

コロナ禍の今、県リコーダー教育研究会の存続が危ぶまれる中で、様々な改革を余儀なくされています。何とか細々ではあっても、リコーダーの火を消すことなく、子供たちにリコーダーのよさを伝えていくことが私たちの使命です。皆様、どうか今後ともよろしくお願いいたします。

新潟県リコ研と私

児玉 禎明

私は昔から音楽が大好きで、私が義務教育の学生時代に当時は必修楽器となっていたリコーダーは、誰でも音を出せて手軽に音感を取得できる楽器ということからでしょうか、大きな魅力を持ちました。

私が学生時代には、学校として新潟県リコーダーコンテストへ参加していませんでしたが、社会人になって同コンテストへは一般の独奏でも参加できると聞き、平成3年から毎年出場していました。そうしたところ、同コンテストは「新潟県リコーダー教育研究会」という団体が主催していて、同会へは教員の方々だけではなく一般でも入会できることを知りました。私はリコーダーへの知識や活動などを広めたいので、平成5年に初めて参加した当会主催の「夏季リコーダー研修会」の中で、私も入会させていただきました。教職外の一般ではたぶん私が初めての新潟県リコーダー教育研究会への入会のように、今は亡き小池先生（元会長）から、「一般の方から入会いただくのは、大変良いことと思っています」という大変有り難いお言葉をいただいたことがありました。現在は一般の方も当会へ入会されておられ、他の都道府県のリコーダー教育研究会へも一般の方もいらっしゃいます。

入会直後は、どのような活動をしていけばいいのかが見えませんでした。総会、例会、夏季リコーダー研修会、新潟県リコーダーコンテストを中心としてリコーダーを楽しむ会ということが次第に分かっていき、年を重ねるごとにやり方が見えてきました。特に夏季リコーダー研修会は、宿泊を伴い一流の講師の方々をお招きする会で楽しく過ごさせていただき、初参加のときは編成上リコーダー的な「4フィート・8フィート」というやり方が最も印象に残りました。これは、リコーダーアンサンブル

の最も基本的な編成の「ソプラノ・アルト・テナー・バス」へ、ちょうど1オクターブ下の「テナー・バス・グレートバス・コントラバス」を順に重ねると、実に豊かな響きになることです。私はアマチュアですが若干作曲・編曲をやり、リコーダーの編曲というと、音が高いクライネソプラニーノから低いバス群まで順に重ねるものと思っていましたが、こういったやり方があるということを知り、夏季リコーダー研修会の中で初めて知って驚き、リコーダーの魅力や奥深さを改めて感じさせられました。

入会から数年が経ち、平成13年から一般会員としてはたぶん初めての「役員」(理事)を務めさせていただき、その後に出場した全日本リコーダーコンテストの中で、新潟県の理事として同コンテストの役員もさせていただきました。お陰様で新潟県内だけではなく、全国へ視野が広がり大変嬉しく思いました。翌年の平成14年には、新潟県リコーダー教育研究会としてホームページを作成することになり、当時個人のホームページを作成していて経験がある私が、役員の中から当会のホームページ担当になり、長年に渡り更新を続けさせていただきました。

私は十日町市へ在住で、以前活動して私は入っていなかった「十日町リコーダーアンサンブル」が、平成7年の夏季リコーダー研修会の中で復活し、私も入って活動していました。そして、平成12年から数年、新潟県外から夏季リコーダー研修会へ参加(同研修会は宿泊できるので、新潟県外から参加の方もいらっしゃいました)された宮城県の坂本先生から、当時ご指導の小学生のリコーダー団体を指導いただきたいとのことで、助成金をいただいて私を中心とした「童謡とリコーダー」という会を平成15年に開催していただき、宮城県へ演奏旅行に行ったことがありました。坂本先生からは、平成23年の東日本大震災の直後に、被災地の方々のために宮城県の避難所でリコーダーを演奏していただけませんか(当時坂本先生は行政勤務で、石巻中央公民館の職員でそこが避難所へ指定されていました)という話があり、私も平成16年の新潟県中越大震災を経験して、同じ被災地としてお気持ちが通じますので、同年の6月と12月に、復興リコーダー演奏会と称して演奏へ行かせていただいたことがありました。(写真)



他に平成14年に、新潟県リコーダー教育研究会役員の森先生が以前勤務された、十日町市の近くの津南町・三箇(さんが)小学校(現在は津南小学校へ合併)で、リコーダー部が発足して新潟県リコーダーコンテストへ初出場することになりました。そこで森先生のご紹介で地元の民謡を使った作曲のご依頼をお受けし、「十日町小唄の主題による変奏曲」という曲で同校がコンテストの合奏へ出場し、その年の同校の文化祭で、私がリコーダーのコンサートをさせていただいたことがありました。その後、当時の三箇小学校の校長先生が転勤になられた、新潟県の小合東小学校という学校が、平成16年にリコーダー教育を導入するにあたり(リコーダーは平成12年から、義務教育で以前のように必修楽器ではなく選択楽器になり、各学校ごとのお考えで選択という位置付けになりました)、同校の文化祭で子どもたちへまずはリコーダーの楽しさ、魅力を伝えたいという大きな目的で、「アンパンマン」「ドラえもん」「サザエさん」などの、子どもたちが知っている曲を中心としたリコーダーのコンサートをさせていただいたことがありました。さらにその後、前述の旧・三箇小学校が新潟県リコーダーコンテストへ初出場したときに指揮をされた教員の方が、その後転勤になられた新潟県の大潟町小学校という学校で、その教員の方からのご依頼で、同

校の校歌や児童会歌を吹奏楽へ編曲と文化祭での指揮、文化祭でのリコーダーコンサートのご依頼がありました。

あと、新潟県リコーダー教育研究会元会長で今は亡くなられた、小池先生がご指導された「南魚沼市民会館リコーダー教室」へ一般で参加の方々と知り合い、平成18年に「JSYリコーダーアンサンブル」という団体で、新潟県リコーダーコンテストの一般・三重奏の部へ出場させていただいたことがありました。そして、夏季リコーダー研修会の中で私はアマチュアですが若干作曲・編曲をお受けする話をしたところ、県内の貝野小学校（現在は田沢小学校へ合併）や三川中学校の教員の方から、同校で使うリコーダー合奏の編曲や、校歌の吹奏楽編曲を頼まれたこともありました。これらのことは、全て「新潟県リコーダー教育研究会へ入会」させていただき、そこで知り合った方々と交流させていただいたのでできたことで、教職外の一般として、このように活動が広がったことへ大変感謝しています。なので、当原稿のテーマとしての「新潟県リコ研と私」につきまして、当会会員の皆様や、当会が主催する夏季リコーダー研修会、例会や新潟県リコーダーコンテスト、そしてさらには全日本リコーダーコンテストなどを通して、多くの音楽仲間の方々と知り合えて交流できたことが一番嬉しく、これが私として一番大きく述べたかったことです。

今はコロナの影響により、大変残念ですが当会の活動が縮小されてしまい、新潟県リコーダーコンテストが会場で開催されず動画審査になり、会場での交流ができなくなりました。しかしながら令和3年10月の例会で、会員の皆さんの新潟県リコ研がこれからもあり続けてほしいという思いが確認され、今後具体的な運営について検討の予定となりました。私としても、リコーダー愛好家としてどのような形でも、新潟県リコーダー教育研究会が今後もあり続けてほしいと強く願っています。

今後ともよろしくお願いいたします。

中村毅先生 ありがとうございます

副会長 嶋見 靖之

全日本リコーダー教育研究会名誉会員であり当会副理事長を務めた中村毅先生が、令和3年10月24日ご逝去されました。

中村先生は昭和60年羽茂中学校着任以来、島内の中学校でリコーダー部の指導に当たられました。先生は音楽の本質を大切に丁寧な演奏づくりをされました。そして音楽に対する情熱と温和な人柄で音楽を愛好する子どもをたくさん育てました。

昭和61年2月には佐渡地区リコーダー教育研究会を中心となって設立しました。平成元年11月には全日本リコーダー教育研究会全国研究大会佐渡大会の運営部長として大会を成功に導きました。さらに平成5年10月には全日本音楽教育研究会新潟大会研究演奏で事務局長を務め、島内6中学校から集まった百名を超える生徒によるリコーダー合奏「リコーダーオーケストラの為のラブソディ『佐渡』」演奏を実現しました。以降、佐渡地区リコーダー教育研究会理事長、代表を歴任しました。

先生のご功績を称えますとともに、先生的情熱と人柄に支えていただいたことに感謝し、謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

<本号は以上です。長い間「さえずり」をご愛読いただきありがとうございました。>